

日本国憲法第九条（戦争の放棄、戦力及び交戦権の否認）

①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

②前項の目的を達するため、陸空海軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。



みやざき九条の会ニュース No. 34

（封書版）2015年09月04日 発行

〒880-0803宮崎市旭1-3-20 くすの樹ビル
TEL:0985(24)8820 FAX:0985(22)2937
http://welove9.org/（募金常時歓迎↓）

口座記号・番号：01760-4-131244
加入者名：みやざき九条の会

いまこそ九条守る声を力強く広げよう

安倍・自公内閣は過半数の国民が反対する「安保法制」（戦争法制）を衆院で強行採決し、60日ルールを適用して衆院で再可決しようとしています。国会での審議をみると安倍首相は答えにならない答えを繰り返すだけで議論になっていません。

みやざき九条の会は戦争法案に反対する宮崎連絡会へ賛同団体として積極的に参加し同法案を廃案にする活動を進めています。

8月22日には弁護士有志の呼びかけに応え「戦争イヤだ！安保法案NO！」実行委員会へ参加し橋通りを埋める300名のデモ行進を成功させました。

8月30日には、国会10万人、全国百万人大行動では、国会前12万結集で大成功し、宮崎市でも山形屋前交差点で「宮崎連絡会」主催による大集会（15時から300名）、憲法若者デモ16時から130名）も行われました。8・30は、日本の閉塞状況を打破する歴史的日となりました。

また、9月9日には同じ実行委員会で大々的な集会を開く準備

を進めています。これらの活動を支えているのは、上記連絡会が毎週金曜日5時から行う街頭宣伝に参加する市民の力です。

時代錯誤の安倍首相が強行する「武力で戦争が抑止できるという発想」は前世期の遺物です。武力は再生産に寄与するものでない以上、これを増強しても生産力の向上という点では無駄でしかありません。ただし、軍需産業にとつては戦争がなくても演習や訓練で武器が消費されるため、大きな儲けが期待できます。もちろん、軍事費は全て税金でまかなわれます。安倍首相のいう成長戦略・第三の矢が一向に見えてきませんが、彼の頭の中にある矢が軍需であるのは確かでしょう。際限のない軍拡競争の行き着くところは戦争しかありません。さらに、武力を「戦争抑止力」という考え方をとれば、究極の「抑止力」として核兵器の保有ということになるでしょう。

戦争により被害を受ける国民大衆の平和を求める心こそ戦争を抑止する最大の力です。世界

中の国民が自国の政府に戦争をさせない、戦争への道を歩ませない、そういう状況をつくりだせれば世界から戦争は消えるでしょう。21世紀は世界から戦争をなくする世紀にしなければなりません。

世界平和のために主権者である国民に出来ること、それは自国が戦争する国になることを拒否すること、時の政府に戦争をさせないことです。憲法九条はこの思想を具体的に示したものです。それ故に憲法九条は世界の宝と呼ばれるのです。この宝をしつかり守り世界に広げる運動をさらに力強く進めましょう。

10月4日はみやざき九条の会・アーサー・ビナード講演会（清武文化会館・13時半開場）です。出来るだけ多くのみなさんに参加していただきますようご案内します。



アーサー・ビナード講演会

開演 14時（開場13時半）

会場 宮崎市清武町文化会館
半九ホール

演題 「安保」と「アンボンタンの」狭間で

アメリカ生まれの詩人と一緒に、この列島を見つめなおしてみませんか？ 新しい視点から、問題を楽しく掘りさげれば、生活の本当の「安全保障」も見出せるはずですよ。

■参加費：前売800円、当日1000円、大学生・専門学校生500円、高校生以下無料

■前売り券は、当会関係者からご購入いただくか、又は、市内「コープみやざき」店舗で購入可。電話予約可。

■駐車場は、会場隣の清武側河川敷駐車場。

■アクセス、最寄り駅は、JR清武駅、官交バス停・清武町支所前下車徒歩数分。

■託児所あり、要事前予約
☎ 090-5283-1331（平野）

■問い合わせ先090-1920-3035（村岡）、080-3956-8757（野中）

(8/30国会包囲大集会で、病を押して立った、世界的音楽家・坂本龍一さんと作家・森村誠一さんのスピーチがよかったので掲載します)

坂本龍一氏のスピーチ

こんにちは。今回の安保法案のことが盛り上がってくる前はですね、かなり現状に対して絶望してたんですが、このSEALDsの若者たち、そして主に女性ですかね、女性たちが立って発言してくれているのを見て、日本にもまだ希望があるんだなと思っ

ているところです。ここまで崖っぷちになって初めて、私たち日本人の中に、憲法の精神、9条の精神がここまで根付いていることをはつきり皆さんが示してくれて、とても勇気づけられています。ありがとうございます。

今の日本国憲法は、確かに、アメリカが働いたという声がありますけども、今、この状況で民主主義が壊されようとしている。憲法が壊されようとしている。

ここに来て、民主主義を取り戻す、憲法の精神を取り戻すことは、まさに、憲法を自分たちの血肉化するにとだと思っんです。とても大事な時

期だと思っいます。

憲法というのは世界の歴史を見ると、何世紀も前から自分たちの命をかけて戦い取ってきたものです。もしかししたら、日本の歴史の中では、明治憲法しかり、日本国憲法しかり、自分たちが命をかけて日本人が戦い取ってきたものではなかったかもしれないけれど、今、まさにそれをやろうとしているのです。

僕たちにとっては、イギリス人にとっての『マグナ・カルタ』であり、フランス人にとっての『フランス革命』に近いものが、今、ここで起こっているのではないかと思っています。ぜひ、これを一過性のもにしないで、あるいは仮に安保法案が通っても、そこで終わりにしないで、ぜひ守り通して、行動を続けていって欲しいと思っいますし、僕も皆さんと一緒に行動してまいります。どうもありがとうございます。

森村誠一氏のスピーチ

戦争は女性を破壊します。最も残酷な形で女性を破壊します。例えば、現在、デモクラシーのシンボルのような憲法においても、女性が美しくある権利を保障するという言葉はあ

りません。なぜ、ないか。それは当たり前前のことを憲法で謳う必要はない。

ところが、戦争が終わった当日、日本の女性、すべての日本人、女性を含めて兵士になれという命令が出ました。その時に女性はどうされたか。まず、女性はもんぺという一番醜い衣服を着て、パーマネントをした女性は髪を刈られ、振り袖を着た女性は袖を切られました。

そういう中で女性は竹槍を与えられて、あの時、ルーズベルトやチャーチルの藁人形に竹槍で、刺し貫く訓練をさせられた。私はそれを見て、大切な女性が破壊されている光景をまざまざと見て絶対に女性にとって戦争をやってはいけません。ごく当たり前の女性の権利を破壊される。安倍政権は、その女性を殺そうとしています。

そして、一番最初に犠牲者となるのは若者たち。

若者たちが一番明白な危険に晒される。そして、女性にとって一番大切な『美しさを守る』ということが踏みにじられます。特に今日、この雨を共有した女性たちはこのことを絶対に忘れずに、戦争が始まったら女性の人權は破壊されるということ

を絶対に忘れないでいただきたい。

いわゆる、女性が壊されるということは、子どもが生まれなくなつて、人生が破壊されて、そして地球が滅びるということ。女性を軽率に、軽蔑して、そして、竹槍を持たせてB29を沈める訓練をさせた。こんな馬鹿馬鹿しい戦争はない。

その馬鹿馬鹿しい戦争を、安倍は再びできるように、可能な国家にしようとしています。私もものを書く人間として絶対に許せない。

けれども、私はかなり危険な思いをしました。『悪魔の飽食』という、アンチ平和を、その戦争というものの真実を書いた場合に、『森村暗殺計画』が企画されました。つまり言論の自由、思想の自由も圧殺された。みなさん、この中で特に一番最初に殺されるのは若い人たちです。それも大学生、高校生が多い。みなさん、今日、降ったこの雨を共有して絶対に忘れない、絶対に安倍を許さない。そして絶対に戦争可能な国家にしてはいけません。

それは私たちの責任でもあり、使命でもあり義務でもありません。どうかみなさん、今日の雨を忘れないように。希望の雨です。どうもありがとうございます。